

**オルビス、復興支援活動として仮設住宅の壁をアートで彩るプロジェクトをサポート
～継続的な被災地支援活動「いつもプロジェクト」の一環として「くらしのある家プロジェクト」を支援～**

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:高谷成夫)は、東日本大震災で被災された方々への継続的な復興支援活動として進めている「いつもプロジェクト」の一環として、被災者の方々が少しでも日常のあたたかな暮らしを取り戻していただくために、仮設住宅の無機質な壁面をハートフルな絵で彩る「くらしのある家プロジェクト」(主催:くらしのある家実行委員会、代表者:佐藤尚之)をサポートします。

この取り組みの主旨は、被災者の方たちが失われた、かけがえのない「いつも(=日常)」を少しでも早く取り戻していただくために、無機質な仮設住宅の壁面をプロのイラストレーターや、住民自らが筆を取り、テーマに沿った色とりどりの絵を描くというものです。被災され家を失った方々は、仮設住宅で新しい生活をスタートさせていますが、整然と並ぶ仮設住宅は不安感や閉塞感を感じさせ、同じ色、同じ形が並ぶため自らの住居がどこか判らず迷われる方もいらっしゃいます。9月に宮城県石巻市の仮設住宅でこの取り組みが行われた際は、住民の方々からも「街に色がついてうれしい」「自分の家がどこか、これですぐに分かる」などの言葉が寄せられました。

オルビスは『特別なものではなく「いつも(日常)」の質を高めるブランドでありたい』という自らのブランドコンセプトと一致する本プロジェクトの考えに共感し、中長期の継続的な復興支援を目指す「いつもプロジェクト」の一環としてサポートすることを決定しました。

この「くらしのある家プロジェクト」は一般財団法人ジャストギビング・ジャパンの被災地支援特別サイト「ribbon プロジェクト」(<http://ribbon.justgiving.jp/>) 内で活動報告され、共感していただいた一般の方々からの寄付も受け付けます。



before

整然と並び、寂しい印象だった仮設住宅がカラフルな色があふれ出す、活気ある街並みに。



after

オルビスは3月11日に起きた東日本大震災の直後から、ポーラ・オルビスグループとしての義援金の寄付やシャンプー・食品などの支援物質のお届けを行うとともに、中長期的な継続支援を行っていくために6月から「いつもプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは、日々の暮らしの質を高めるブランドを目指してきたオルビスが、被災された方々のかけがえのない日常を取り戻すお手伝いがしたい、という想いから、「いつもプロジェクト基金」を社内に開設し、対象商品の売上の一部を寄付する、あるいはお客さまがお持ちの商品券やポイントを寄付していただくなどして積み立て、復興に向けた寄付又は支援活動に充てるものです。7月からは具体的支援活動の第一弾として、仙台フィルハーモニー管弦楽団の音楽の力による復興支援活動をサポートしています。

「いつもプロジェクト」で集まった基金については、本活動以外にも被災地域の復興のために有効に活用できるよう十分検討を重ね、今後も様々な形で継続的に寄り添う形で支援していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】(株) ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室

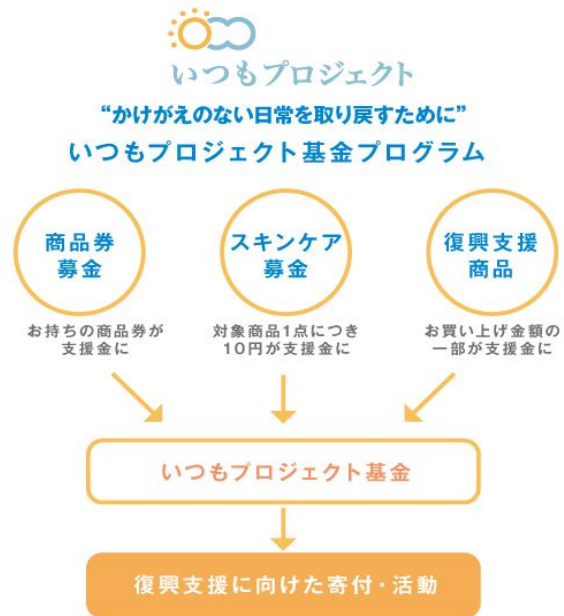
Tel 03-3563-5540 / Fax 03-3563-5543

参考資料

【「いつもプロジェクト」について】

オルビスでは常に“いつも”の質を高めることを目指してきました。今回の大震災を受け、当たり前のようであった“いつも”の生活が、どれほど大切なものであったかに、あらためて深く気づかされました。“いつも”の積み重ねが、その先の未来の“いつか”につながっている—その想いから、復興を支援し、かけがえのない日常を取り戻すお手伝いをしたいと、「いつもプロジェクト」を立ち上げ、オルビス社内に基金を設立しました。

いくつかの形でお客さまからいただいた募金は、この「いつもプロジェクト基金」にてお預かりし、被災地の方々のご要望にあわせた寄付や復興支援活動に使用させていただきます。



【仙台フィルハーモニー管弦楽団による「音楽の力による復興センター」事業立ち上げについて】

音楽には、過去の様々な災害や戦争で、傷付いてきた人々の心を癒し、勇気付けてきたことでも実証されるとおり、強い力があります。東日本大震災の発生時、仙台フィルハーモニーの楽団員はリハーサルのために集合しており楽器も含め奇跡的に無事でした。しかしながら、演奏場所である東北一円のホールが甚大な被害を被ったため、6月までの演奏会は全て中止という事態に追い込まれました。この状況下で自分たちに何が出来るかと考えた結果は、ボランティアで被災地や避難所を訪ね、演奏を直接届けることによって災害の犠牲者を鎮魂し、ご家族や日常の生活を失われた方々を癒し、再生の希望を持てるようにすることでした。そこで仙台フィルハーモニー管弦楽団の持つ音楽的・人的資産を活かし、被災者に直接音楽を届け、復興に役立てる為に設立されました。

趣旨に賛同された方に①演奏会実施の為の資金援助、②被災者が集まり易く演奏できる会場について、場所や情報の提供、などを呼びかけています。

現在までに数多くの演奏会を開催、音楽の力を核とした癒しと励ましの空間を被災地域に生み出しました。特に3月26日から5月15日までは、実家が津波で流された担当職員の発案によりマラソン形式で毎日休まずにコンサートを実施し、被災地に大きな勇気と感動を与えました。支援目的による全国からの音楽関係者からの招聘も多く、各地から熱い反響と声援が届いています。

【ポーラ・オルビスグループの復興支援への取り組みについて】

- * 震災発生直後から、被災地への物的支援（ヘアケア・衛生用品、下着、食品など約20万点）、義援金（総額約8,300万円）はもとより、事業を通じた被災地支援として、3月～4月の売上合計に対する一定率相当額として約7,300万円を寄付（ポーラ）するなど、様々な形で支援に取り組んでおります。またACRO社では「THREE グラムタッチリップグロス（税込2,940円 限定発売）」の、売上1本につき1,000円を被災地の女性・妊産婦支援のために、ホワイトリボン運動（実施 NGOジョイセフ）を通じて寄付しました。
- * ポーラでは、7月より全国各地で開催する展示販売会（ポーラフェア）の各会場において、被災地特産品を販売し、産業復興を支援しています。